

| | |
|------------------|---|
| Title | 寄贈交換雑誌目録 |
| Sub Title | |
| Author | |
| Publisher | 三田史学会 |
| Publication year | 1951 |
| Jtitle | 史学 Vol.25, No.2 (1951. 11) ,p.46(173)- 46(173) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19511100-0046 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

(5) チンの傳説によると全人類はリンネ Hinyu と呼ぶ女の生んだ百一卵から孵つたのであり、チン人は一番最後の卵から生れ、母に最も愛されたがその他行中に世界は皆兄達に分配され、チン人の所有にはたゞ荒涼たる山のみが残されたのであると云ふ。(Shway Yoe, *The Burman, his Life and Nations*, London, 1910, p. 443)

(6) 廣西ロロ族の間に於て祖龕の上に竹木兩片一つは短く一つは長きを安置し、長い方を神公、短き方を神母と爲し、その由來を説いて次の如く云ふ。昔、竹の大變よく茂り、太いのが生え、中に人馬弓箭を多く藏してゐた。竹が充分生育した時、之を破り、出でて天下を取らんとしたのである。たまたまシナの皇帝が此處を過り、その變輿のながえが折れたので竹を切つて之を作らんとした所、中から人馬の出でくるのを見て大いに驚き、林を焚いてしまひ、人馬は盡く死し、其首領は煙に乗つて天に去り、また歸らぬ。そのためロロ人は竹を祖堂に奉じて朝夕禮拜するのだと云ふ。(劉錫蕃、*嶺表紀蠻*「二九八頁」)

(7) 今黔苗自らその祖先を述べて則ち謂ふ、昔山巖が爆裂し、その裂目より男女二人が出で、夫婦となり、九子を生んだ、その九子が門前の九樹を以て姓となし、その後子孫繁榮し、岐れて九種苗人となつた。(嶺表紀蠻「六、七頁」) 此話は鳥居博士の苗族調査報告の記述と相補足する。

(8) 此論文は數年前の脱稿にかゝり、最近の諸論文を利用してゐない。たとへば中國でも凌純聲「畚民圖騰文化的研究」(歴史語言研究所集刊、十六本、一九四七)、聞一多「伏羲考」(聞一多全集、一、一九四四年)等の研究が出ていろいろの新見解が述べられてをる。これらに就てはまた次の機會に觸れてみたい。

寄贈交換雜誌目錄

史 學 雜誌 六〇ノ六一一〇 史 學 研 究 會
 史 林 三四ノ三 史 學 研 究 會
 史 淵 四七、四八 九 州 史 學 會

社會經濟史學 十七ノ三、四 社會經濟史學會
 西 洋 史 學 九一十一 日 本 西 洋 史 學 會
 東 方 史 學 二 東 方 史 學 會
 人 文 研 究 二ノ六一一〇 大 阪 市 立 大 學 文 學 會
 西 日 本 史 學 七、八 西 日 本 史 學 會